

# 国 語

## 注 意

1. 問題は全部で19ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

### マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7	<input type="radio"/> 8	<input type="radio"/> 9	<input type="radio"/> 0
---	----------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

—  
次の文章を読んで、後の問に答えよ。

そもそも、東京音楽学校は何のために作られたのでしょうか。優秀なピアニストや歌手を養成するためだったのでしょうか？ それによって日本の芸術文化を豊かにするためだったのでしょうか？ 全く違います。あえて極端な言い方をすれば、少なくとも初期の東京音楽学校においては、音楽はそもそも「芸術」<sup>1</sup>であるなどは考えられていなかったのです。

東京音楽学校にはさらにその前身があり、それが「音楽取調掛」という組織であったということはよく知られています。音楽取調掛は一八七九(明治一二)年に文部省によって設置されたもので、その名が示す通り、近代国家として新たなスタートを切った日本という国の音楽文化を整備・発展させてゆく基礎づくりのための調査や方向づけを行うとともに、そのような事業を進めてゆく人材を養成することを目的とした組織として設けられました。この音楽取調掛が拡充整備され、一八八七(明治二〇)年に東京音楽学校として発足しました。ちなみに、今日の東京芸術大学のもう一つの柱をなす美術学部の前身である東京美術学校もまた、やや遅れて一八八五(明治一八)年にやはり文部省によって作られた図画取調掛を母体として、同じ一八八七年に発足しており、そのことは、両者が共通の国策のもとに作られた存在であることをよく示しています。

それにしても、この発足の時期、異常にはやいと思いませんか？ 東京音楽学校の一八八七年もそうですが、音楽取調掛の創設にいたっては、明治の声をきいてからまだ一〇年そこそこというのだから、驚くべきはやさです。議会の開設、司法・行政組織の整備は言うに及ばず、鉄道や道路の建設、学校組織の整備、官営工場の設置など、早急に解決しなければならぬ課題が目の前にたくさんあったはずですから、そんな時期に、芸術などという、言ってみれば、A のものに金や時間を割く余裕があったなどは、今の日本の文化政策の状況などを考え合わせれば、とても想像できないことです。この時代は文化や芸術に関する意識が今よりもはるかに高かったとでもいうのでしょうか。考えられる可能性はただ一つ、このような状況下でどうしても西洋音楽を導入することが求められるようなさしせまった状況があったということ、言い換えるならば、それが<sup>2</sup>芸術とか文化とかいうような、脳天気なカテゴリーに属するものとして捉えられてはいなかったということです。

そのさしせまった必要性というのは、「国民」意識の確立という問題です。明治維新で開国の道を選択し、国際社会に打って出ることを決断した日本にとって必要なことは、日本という国を、欧米列強に伍ごすることのできる近代的な国民国家に作り替えることでしたが、それは生やさしいことではありませんでした。というより、極端に言うなら、問題はそもそも、日本という国を近代国家に作り替えるなどという話ですらなく、<sup>3</sup> これまでになかった日本という国を新たに作り上げることだったと言った方がよいくらいからです。

われわれは何となく、日本という国は明治以前から今のよう<sup>3</sup>に存在していて、明治維新ではその国が鎖国を解いて近代化したというようなイメージで捉えています。実際にはそんなものではありませんでした。たしかに織田信長以来、政治的には統一された国家ができあがっていたというのは、ある意味で正しいです。年貢制度や検地など、明治以後の日本の根幹を形作る制度の原型となるようなものが、すでにある程度全国規模できあがっていたことも事実ですから、この時期にはじめて一つの国になったというのは言い過ぎかもしれません。しかし、明治以前の日本という「国」の概念は、今のわれわれが「国」という語で考えるものとは相当に違ったものでした。たとえば、沖縄や北海道は日本という「国」の一部だったでしょうか？ その人々は、日本の「国民」であるという意識をもっていたでしょうか？ どちらも「否」でしょう。これらの地については、国境線すらはつきりしていませんでしたし、沖縄などは明治になって「琉球処分」<sup>4</sup>が断行されるまでは、日本の領土なのか中国の領土なのか、はたまた独立国なのかもはつきりしないような状況でした。それでも何となく治まっていたのは、そこでの「国」という概念が、定められた共通の公用語を話し、共通の法律で統治され、一つの戸籍制度によって管理される近代的な「国」とは違うレベルの話だったからです。

それゆえ問題は、北海道や沖縄のような境界線上に位置する特殊な地域だけの話ではありませんでした。たとえ東京のど真ん中に住んでいる人であっても、今日的な意味で日本という「国」に帰属している日本の「国民」たる意識をもっているなどということとは考えられません。明治になってかなりたつてからでも、いろいろな文書を見ると、「国」という語で人々が思い浮かべるのは、まずもって、「相模国」「摂津国」などという行政単位における「国」であったことがわかります。人々が何らかの形でもっ

ている帰属意識の限界はせいぜいそのあたりであり、それをこえて自分が日本という国に帰属する「国民」であり、共通の制度のもとにいるとか、自分の国の元首が徳川家康であるなどという意識をもつことはまずなかつたと言えるでしょう。

「日本」という「国」は、その意味では、明治になってそのような近代国家を打ち立てるために作り上げられた<sup>5</sup>仮想的な共同体という側面を強くもっています。それをより強固なものにするために、万世一系の天皇を中心とした国体という概念が作り出され、それにまつわるストーリーやら証拠やらが「発見」<sup>6</sup>されました。もうずいぶん以前のことになってしまいましたが、昭和天皇の崩御に際して行われた、一見古くから伝わる伝統的な行事に見えるものの多くが、実は明治になって始まったものであったということが明らかになって驚いた記憶があります。しかしそれだけでなく、「国民」が共有すべきものとしての「日本文化」の多くが、実はこの時期に整えられたものでした。「日本音楽」という概念や<sup>ア</sup>ひょうしようもこの時期に作られたものです。もちろん、その内実がすべて新たに作られたというわけではありませんが、昔からあるものが取捨選択されたり、近代化・改良されたりすることを通して、あたかも一つの体系をなすかのように再編成されるまでは「日本音楽」という概念など存在もしませんでした。こういう概念ができあがっていくことによってはじめて、人々は、自分がそういう一つの文化を共有する「日本人」であるという形でのアイデンティティ意識をもつようになったのです。

(渡辺裕『歌う国民』による)

問一 傍線部1「芸術」であるなどとは考えられていなかった」とあるが、ここで「芸術」と呼ばれているものは筆者にとってはどういうものであるのか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 1。

- ① ピアニストや歌手の技能を追求するもの
- ② 西洋の学問を輸入した貴重な存在
- ③ 表現することによって美の本質を探究するもの
- ④ 江戸時代からの伝統的な音楽を継承するもの
- ⑤ 近代的な外面だけを整えた借り物的存在

問二 空欄 A には「あわててすることではない」という意味の四字の「不 a 不 b」という漢語熟語が入る。a と b とにそれぞれ適切な漢字を一字入れよ。解答用紙(その2)を使用。

問三 傍線部2「芸術とか文化とかいうような、脳天気なカテゴリーに属するものとして捉えられてはいなかった」とあるが、この表現の中で、筆者は、音楽についてどのように考えているのか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。

解答欄番号は 2。

- ① 無用なものとしての芸術や文化ではなく、当時の社会の中で必須のものとして把握されていたと見ている。
- ② 音楽を芸術や文化の中に位置づけ、低級なものとして考える当時の風潮に反対している。
- ③ 音楽は、当時、芸術や文化一般とはかけ離れた存在であったということ強く主張している。
- ④ 文化や芸術に関する意識が低かったため、音楽をその中に組み入れることができなかつたと考えている。
- ⑤ 音楽は「脳天気」というような表現で示すことができない神聖なものとして捉えられていたと見ている。

問四 傍線部3「これまでになかった日本という国」とあるが、どうして日本がなかったと言えるのか。最適なものをつぎの①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 3。

- ① 年貢制度や検地などが江戸時代にはすでに完成していたため、明治になってからできたものはなかったから
- ② 明治初期には、日本には欧米列強に伍していくだけの国力が足りなかったから
- ③ 国際社会の中で開国したばかりの日本は他国から十分に認知されていなかったから
- ④ 当時の人々は、現在我々が知っている国家としての概念をまだ持っていなかったから
- ⑤ 日本の領土は、その周辺部分ではまだほとんど確定していなかったから

問五 傍線部4「そこでの「国」という概念」とあるが、どのような概念だったのか。その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 4。

- ① 幕府などのひとつの政治主体によって統一されているもの
- ② 全国がすべて共通の法律で統治されている場所のこと
- ③ ひとりの人を元首として意識している共同体としてのまとまり
- ④ 現在の「県」レベルの単位がゆるやかに統合されたもの
- ⑤ 国の周辺に位置し、境界線上に位置する特殊な地域であること

問六 傍線部5「仮想的な共同体」であるとはどういうことを表しているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせ

よ。解答欄番号は 5。

- ① もともと存在した日本文化をひとつずつ掘り起こす作業によって生まれたこと
- ② 政府によって強制された国境によって無理矢理に作られた人工的な産物であるということ
- ③ 江戸時代の日本国の元首が徳川家康であったというような意識を持つに至ったこと
- ④ 諸外国から見た日本がひとつの近代国家であると認定されたこと
- ⑤ 民族や言語の同一性を根拠とした一体感を抱いて構築された一種の想像物であるということ

問七 傍線部6「発見」されました」と「発見」が括弧つきになっているのはなぜか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマ

ークせよ。解答欄番号は 6。

- ① 古文獻を探するなど相当に困難な作業によってそれらのものが見つかったから
- ② 新たに作成されたが、それ以前からあったとされたものも多かったから
- ③ 日本の各地において伝統的行事がもともと行われていたことがわかったから
- ④ もともと存在していたものが近代化によって新たな装いを持つに至ったから
- ⑤ 昔から存在するものが取捨選択されて、適切なものだけが残ったから

問八 日本文化のひとつである「国語」も、明治時代の政策課題であった。この文章の音楽に対するものと同じ方向性で「国語」についての政策も行われたが、この文章から推測して、その政策として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 7。

- ① 東京の言語を標準語と定めて、広く教育に適用することとした。
- ② 漢字をできるだけ少なくすることで読みやすい文書を作成した。
- ③ ローマ字を作り、海外の人と交流しやすくした。
- ④ 過去の文献を改めて調査し印刷して広めた。
- ⑤ 外国語学習をオランダ語学習から英語学習に切り替えた。

問九 筆者は、この文章で、明治時代に「音楽」に期待されていた役割をどのように捉えているか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 8。

- ① 文化政策の推進基盤
- ② 共同体構築の手段
- ③ 国の近代化の一階梯
- ④ 行政組織の整備の補助
- ⑤ 伝統的行事の復古

問十 二重傍線部ア「ひょうしょう」を漢字にせよ。解答用紙(その2)を使用。



この男、またはかなきものたよりにて、雲居よりもはるかに見ゆる人ありけり。ものいつくべきたよりにかりければ、いかなるたよりにして、<sup>a</sup>気色見せむと思ひて、からうじて、たよりをたづねて、ものいひはじめてけり。「いかで、一度にても、御文ならで、聞こえしが<sup>1</sup>な」といふを、「いかがはあべき。げに、よそにても、<sup>2</sup>いはむことをや聞かまし」と思ひけるほどに、この女の親の、わびしくさがなき朽<sup>\*くち</sup>の、さすがにいとよくものの<sup>b</sup>気色を見て、かしがましきものなりければ、かく文通はずと見て、文も通はず、責め守りければ、この男は、せめて、「対面に」といひければ、この女ども、<sup>\*</sup>「かかる人の、制したまへば、雲居にてだにもえ」などいひ聞かせよとてなむ、迎へる」といひければ、「今まで、なかおのれにはのたまはざりつる。人の気色とらぬさきに、月見むとて、母の方に来て、わが琴弾かむ。それにまぎれて、簾のもとに呼び寄せて、ものはいへ」とぞ、この、来たる親族たばかりける。さて、この男来て、簾のうちにて、ものいひける。この友だちの女、<sup>3</sup>「わが徳ぞ」といひければ、「うれしきこと」など、男、女いひ語らふに、この、母の女のさがなもの、宵まどひして寝にけるとこそありけれ、夜ふければ、目さまして起き上がりて、「あな、さがな。などで寝られざらむ。もし、<sup>\*</sup>あややある」といひければ、この男、簀子のうちに、はひ入りて隠れにければ、<sup>ア</sup>のぞきて見るに、人もなかりければ、「おいや」などいひてぞ、奥へ入りける。その間に、男、いで来たれば、「よし、これを見たまへ。かかればなむ。命あらば」などいひけるほどに、「あやしくも、いませぬるかな」といへば、男、帰りぬ。

(A) たまさかに聞けとしらぶる琴の音のあひてもあはぬ声のするかな

といひたれば、この、琴弾きける友だちも、「はや返ししたまへ」といひけるほどに、親聞きつけて、「いづこなりし盗人の鬼の、わが子をば、<sup>\*</sup>からむ」といひて、いで走り追へば、<sup>ク</sup>沓をだにも履きあへで、逃ぐ。女どもは息もせで、うつぶしふしにけり。かかりけれど、いみじう制しければ、言の通はしをだにえせで、ものいひけるたよりを尋ねて、寄せざりけるほどに、ひと人にあはせてけり。さりければ、男、親さあはずとも、<sup>4</sup>さやはあるべきとぞ、思ひ憂じてやみにける。

\* 朽嫗 || 老女。

\* 女ども || 女の家の女房たち。

\* 友だちの女 || 同じ行の「来たる親族」と同じ人。

\* あや || 入り組んだわけ。

\* 簀子のうち || ここでは、縁の下。

\* からむ || 捕らえる。

問一 傍線部 a「気色」と傍線部 b「気色」、それぞれの意味として最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄

番号は、a || 9、b || 10。

- ① 気配                      ② 事情                      ③ 表情                      ④ 恋心                      ⑤ 風景

問二 傍線部 1「しがな」と入れ替えると文の意味がまったく変わってしまう語を、次の①～⑤から一つ選び、記号をマークせ

よ。解答欄番号は 11。

- ① まほし                      ② ばや                      ③ む                      ④ むず                      ⑤ しむ

問三 傍線部 2「よそにても」とは、ここではどのような意味か。次の①～⑤から最適なものを選び、記号をマークせよ。解答欄

番号は 12。

- ① 物越しでも  
② 遠方のままでも  
③ 他人であっても  
④ 女房を通してでも  
⑤ 気持ちが変わらなくても

問四 傍線部「わが徳ぞ」とはどのような意味か。次の①～⑤から最適なものを選び、記号をマークせよ。解答欄番号は

13。

- ① 私にお礼を下さいますね。
- ② 私とお母さんとの仲ですから。
- ③ 私が工夫をしてあげたおかげですよ。
- ④ 私のことは気にしなくてもいいですよ。
- ⑤ 私にとってこんなうれしいことはありません。

問五 二重傍線部「ア」のぞき見て見る、「イ」「いひ」、「ウ」「いへ」の主語は、それぞれ誰か。その組み合わせとして正しいものを次の①

～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 14。

- ① ア||母 イ||女 ウ||男
- ② ア||母 イ||男 ウ||女
- ③ ア||母 イ||母 ウ||女
- ④ ア||男 イ||女 ウ||母
- ⑤ ア||男 イ||母 ウ||女

問六 (A)の和歌には掛詞が用いられている。その掛詞の二つの意味がわかるように、漢字一字ずつで表せ。問六は解答用紙

(その2)を使用。

問七 傍線部4「さやはあるべき」とは、どのような意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **15**。

- ① このまま諦めたままでいられようか。
- ② 親の意向に反発するのが当然であろうか。
- ③ 結婚生活が長続きするはずがあるだろうか。
- ④ 親の言うとおりに結婚などしてよいものだろうか。
- ⑤ いくら親でも勝手に娘の結婚を決めてよいだろうか。

問八 『平中物語』は、歌物語に分類されるが、次の①～⑤から、歌物語を一つ選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **16**。

- ① 大鏡
- ② 大和物語
- ③ 住吉物語
- ④ うつほ物語
- ⑤ 落窪物語

### 三

次の文章を読んで後の間に答えよ。前半の小説部分の引用と後半の評論とを対比してよく読んで答えよ。小説部分では、お金に困った津田とお延の夫婦のところに津田の妹のお秀が来て言い争いになる場面が描かれている。

『明暗』の名場面の中でも際だったもののひとつです。少し長くなりますが、章全体を引用します。入院中の津田のところに妹のお秀がお金を持って訪れる。しかし、なかなかお金をくれない。津田はそのお金が喉から手が出るほど欲しいのだけど、なかなか素直に頭を下げないものだから、お秀の方も意地になっている。どんどん津田たちを追い詰めようとする。すると、いよいよ窮地に追い込まれたかというところで、お延が逆転の一手を繰り出すという場面です。

仕舞に津田とお秀の間に下のような問答が起った。

「始めから黙っていれば、それまでですけれども、一旦云い出して置きながら、持って来た物を渡さずにこのまま帰るのも心持が悪う御座んすから、どうか取って下さいよ。兄さん」

「置いて行きたければ置いといでよ」

「だから取るようにして取って下さいな」

「一体どうすればお前の氣に入るんだか、僕には解らないがね、だからその条件をもっと淡泊に云っちゃったら可いじゃないか」

「あたし条件なんてそんなむずかしいものを要求してやしません。ただ兄さんが心持よく受取って下されば、それで宜いんです。つまり兄妹らしくして下されば、それで宜いだけです。それからお父さんに済まなかつたと本氣に一口仰しやりさえすれば、何でもないんです」

「お父さんには、とつくの昔にもう済まなかつたと云っちゃまったよ。お前も知ってるじゃないか。しかも一口や二口じゃないやね」

「けれどもあたしの云うのは、そんな形式のお託たつじゃありません。心からの後悔です」

津田は高たかがこれしきの事にと考えた。後悔などとは思ひも寄らなかつた。

「僕の詫わび様が空々しいとでも云うのかね、なんぼ僕が金を欲しがらつたって、これでも一人前の男だよ。そうぺこぺこ頭を下げられるものか、考えても御覽な」

「だけれども、兄さんは実際お金かねが欲しいんでしよう」

「欲しくないとは云わないさ」

「それでお父さんに謝罪あやまつたんでしよう」

「でなければ何も詫わびる必要はないじゃないか」

「だからお父さんが下さらなくなつたんですよ。兄さんは其所そこに気が付かないんですか」

津田は口を閉じた。お秀はすぐ乗し掛つて行つた。

「兄さんがそういう気で居らつしやる以上、お父さんばかりじゃないわ、あたしだって上げられないわ」

「じゃお止しよ。何も無理に貰もらおうとは云わないんだから」

「ところが無理にでも貰もらおうと仰おほしやるじゃありませんか」

「何時いつ」

「先刻さつぱからそう云つていらつしやるんです」

「言掛りを云うな、馬鹿」

「言掛りじゃありません。先刻から腹の中でそう云い続けに云つてるじゃありませんか。兄さんこそ淡泊たふはくでないから、それが口へ出して云えないんです」

津田は一種げん嶮しい眼をしてお秀を見た。その中には憎悪が輝やいた。けれども良心に対して恥はずかしいという光は何処どこにも宿らなかつた。

そうして彼が口を利いた時には、お延でさえその意外なのに驚かされた。彼は彼に支配できる最も冷静な調子で、彼女の予期とはまるで反対の事を云った。

「お秀お前の云う通りだ。兄さんは今改めて自白する。兄さんにはお前の持つて来た金が絶対に入用だ。兄さんは又改めて公言する。お前は妹らしい情愛の深い女だ。兄さんはお前の親切を感謝する。だからどうぞその金をこの枕元へ置いて行つてくれ」

<sup>4</sup> お秀の手先が怒りで顫えた。両方の頬に血が差した。その血は心の何処からか一度に顔の方へ向けて動いて来るように見えた。色が白いのでそれが一層鮮やかであった。然し彼女の言葉遣いだけはそれ程変らなかつた。怒りの中に微笑さえ見せた彼女は、不意に兄を捨てて、輝やいた眼をお延の上に注いだ。

「嫂さんどうしましょう。折角兄さんがああ仰しゃるものですから、置いて行つて上げましょうか」

「そうね、そりゃ秀子さんの御随意で可ござんすわ」

「そう。でも兄さんは絶対に必要だと仰しゃるのね」

「ええ良人には絶対に必要かも知れせんわ。だけどあたしには必要でも何でもないのよ」

<sup>5</sup> 「じゃ兄さんと嫂さんとはまるで別ツこなのね」

「それでいて、些とも別ツこじやないのよ。これでも夫婦だから、何から何まで一所くたよ」

「だって——」

お延は皆まで云わせなかつた。

「良人に絶対に必要なものは、あたしがちゃんと拵えるだけなのよ」

彼女はこう云いながら、昨日岡本の叔父に貰つて来た小切手を帯の間から出した。

どうでしょう。最後にお延がお金を差し出す部分は<sup>6</sup>じつに痛快で、つくづくお延というのはすごい人だなあ、と唸つてしまふ

のですが、そこに至るまでの津田とお秀のやり合いもなかなか迫力があります。

ここでの会話の核となっているのは問答的なやり取りでしょう。「だけれども、兄さんは実際お金が欲しいんでしょう」↓「欲しくないとは云わないさ」↓「それでお父さんに謝罪ったんでしよう」↓「でなければ何も詫る必要はないじゃないか」といった問答の応酬がリズムをつくっている。会話の土台となるのは、問いを立てたり、答えたりというやり取りです。ということは本来なら、発見や事実の開示などがあってもいい。でも、問答はあくまで形の上のことにすぎないのです。それぞれの人物はぜったい相手に本心を言うつもりはないし、相手が自分に対して本心を言うわけがないこともわかっている。だから相手が言っていないことをその裏に読み取ったり、「ところが無理にでも貫おうと仰しゃるじゃありませんか」、今見たように、わざと嘘だと見え見えのことを言ったりする（「お秀お前の云う通りだ。兄さんは今改めて自白する。……」）。

これはいつたいう言語状況なのでしょう。お互いに相手の真意を測るために問答というモードを採用しているにもかかわらず、発せられる言葉は真意からはどんどん遠ざかっていく。ゲームのようでもあります。お互いに相手を騙すことで、少しでもポイントをあげようとしているかのようにも見える。

『明暗』は人間の A とかかわろうとする小説です。でも、この小説はなかなか本当のことを「これが本当のことだ」と提示してはくれません。そういう種類の小説ではない。むしろこの小説で大事なものは、何が A なのかを探ろうとする態度そのものです。つまり A に向けた探求の姿勢こそが、『明暗』という小説の A とのかかわりの形をつくっている。そしてそのような姿勢は、小説というジャンルの根底にある旨味のようなものともつながってくるのです。

（阿部公彦『小説的思考のススメ』による）



問一 傍線部1「兄妹らしくして下されば、それで宜いというだけ」とは、お秀はどのようなことを要求しているのか。最適なもの  
の次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **17**。

- ① 理屈ではなく、兄としてのやさしさを示して欲しい
- ② 兄としての威厳を保った態度で自分に接して欲しい
- ③ 父・兄・妹といった親族の間での礼儀を守って欲しい
- ④ 上面の言葉ではなく、素直に心情のこもった表現をして欲しい
- ⑤ 持って来たお金を黙って受け取ってくれればいい

問二 傍線部2「高がこれしきの事にと考えた」とあるが、津田がそう思った理由として最適なもの  
を次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **18**。

- ① 津田にとっては自分の体面を維持することが最重要であるから
- ② 津田にとっては借りた金銭の額がさほどのものではないと考えているから
- ③ 津田は実はあまりお金にはこだわっていなかったから
- ④ 津田は父にも妹にも何度も謝ったので充分だと考えているから
- ⑤ 津田はお秀と仲が悪いため謝る気持ちが生じなかったから

問三 傍線部3「だから」とあるが、なぜお秀はここで「だから」と言ったのか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 19。

- ① 津田がこれまでに何度も父に謝ったから
- ② 津田が心からの後悔と謝罪の気持ちを持っていないから
- ③ 津田がお金を欲しいことをあからさまに示しているから
- ④ 津田が父にも妹にも黙ってお金を使い込んでしまったから
- ⑤ 津田が自分はお金が欲しくないなどと心にもないことを言うから

問四 傍線部4「お秀の手先が怒りで顫えた」のはなぜか。最適なものを次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 20。

- ① 津田が自分に対して以前からの深い憎悪を持っていることを改めて知ったから
- ② 津田が自分が思ったよりもはるかに冷静な言葉を口にしたことに驚いたから
- ③ 津田がお金の必要性を露骨な言葉で言い表したことに気がついたから
- ④ 津田が自分に対してもこれまでの行為に対する謝罪の言葉をいっさい述べなかったから
- ⑤ 津田が心にもないことを言っていることを切り抜けようとしていることが明らかだから

問五 傍線部5「じゃ兄さんと嫂さんとはまるで別ッこなのね」と言ったお秀の気持ちはどういうものか。最適なものをお次の①～

⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **21**。

- ① 津田とお延との意見の違いに驚き、それが自分に有利だと思う
- ② 夫婦の間の意志疎通がうまくいっていないことを怪しんでいる
- ③ 金銭の必要性が津田とお延とで異なることをあえて強調している
- ④ 津田とお延とが仲が悪いことを知って勝ち誇っている
- ⑤ 津田とお延が別居しているために相互の意見が違うことを知った

問六 傍線部6「じつに痛快」なのはなぜか。最適なものをお次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **22**。

- ① お延がそれまで嘘をついていたことがここで明らかになるから
- ② 津田とお延がふたりでお秀をだましていたとわかるから
- ③ 隠し球である小切手を出すことでお延とお秀の立場が逆転するから
- ④ 津田とお延の夫婦の愛情が深いことに感銘を受けるから
- ⑤ お秀がお延に対して挑発的態度をとったことが失敗だったと示されるから

問七 傍線部7「ゲームのようでもあります」とあるが、この文章ではどのような形でそれが実現しているのか。最適なものをお次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は **23**。

- ① 複数的人物がまるで舞台のようにその人物を演じる
- ② 問答形式をとりながら、その中で相手に気持ち悟らせようとする
- ③ お互いに真意を示さないうで相手よりも優位な立場に立とうとする
- ④ 事実を小出しに開示しながら、相手の真意を探っていく
- ⑤ 口からでまかせを言うことで相手を騙そうとする

問八 空欄 A を埋めるのに、最適なものを選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 24。

- ① 現実
- ② 謝罪
- ③ 眞実
- ④ 情愛
- ⑤ 意地

問九 本文中で引用されている小説『明暗』の作者は誰か。次の①～⑤から選び、記号をマークせよ。解答欄番号は 25。

- ① 志賀直哉
- ② 太宰治
- ③ 夏目漱石
- ④ 森鷗外
- ⑤ 芥川龍之介







